

令和6年度上越市・妙高市在宅医療・介護連携推進協議会

第1回対人支援スキルアップ部会を開催しました

○6月19日（水）に第1回対人支援スキルアップ部会を開催しました。参加者は、部会メンバー8人、事務局3人、上越地域在宅医療推進センター1人の12人でした。

○今回の議題

- (1) 令和5年度の振り返り
- (2) 研修パッケージ活用に向けて
- (3) 事例検討



○部会での検討事項等

(1) 令和5年度の振り返り

- ・部会委員が研修パッケージを使った研修を体験したことで、自身の支援の振り返りや職場研修への活用、今後の部会としての取組等を考える機会となった。
- ・部会で作成した研修パッケージを用いた研修を職場や職域で実施してもらうための方策について検討が必要である。
- ・研修受講者への半年後のアンケートでは9割以上が「研修会の内容を日頃の実践の中で意識している」と回答しており、研修受講による効果がみられた。

(2) 研修パッケージ活用に向けて

- ・研修の内容は、対人支援を行うどの職種にも通ずる基本理念だが、自分には関係ないと受けない人もいるため、どの職種にも受けていただけるよう、概要を分かりやすく伝える必要がある。
- ・分かりやすくかつ興味・関心を引くような案内チラシがあると良い。

- ・案内チラシについて、①視覚から興味を持てるようレイアウトを工夫してはどうか。②概要説明だけでなく、研修受講後の感想を載せる等、研修を受けることでのメリットを示すと関心を持ってもらえるのではないか。との意見があった。

◇今後の取り組み◇

- ・上記意見を取り入れた案内チラシを作成し、研修パッケージの活用を広める。

(3) 事例検討

【医療者が最善と考える提案に対し、患者が拒否を示した事例】

◇感想・気づき◇

- ・本人の考えや希望を掘り下げて話を聞いていくことが大切。
- ・現在の状態になった理由や、今までの生活背景を聞き取ることで、本人への理解を深めていく必要がある。
- ・無意識のうちにレッテルを貼り、本人のことを決めつけていた。
- ・医療者側の論理を振りかざして説得しようとしていた。

◇今後に生かせること◇

- ・「わかっている」が「そのとおりに思っている」ではないことが多い。本人の背景を聞き取ると、なぜそう思っているか腑に落ちることが多いため、相手に寄り添って話をよく聴くことが大切。

◇「患者/クライアント」と「医療者/支援者」の関係性について◇

- ・「SDM（共同意思決定）」という考え方が広まってきている。
- ・「信頼関係の構築」は重要事項であるが、信頼されているがゆえに本人の意思を決めつけてしまうことがないよう、注意が必要である。

※部会2回目は令和6年9月に開催予定。